



安芸戦士メープルカイザー

先日[2026年(令和8年)1月6日]の讀賣新聞にあった、『全力ヒーローあと1年』という見出しに目を引かれました。読み進めてみると、児童虐待防止を掲げるご当地ヒーロー「安芸戦士メープルカイザー」が、2027年3月31日で活動を休止すると自身のSNSで公表していることに触れ、メープルカイザーのこれまで16年間の活動とメープルカイザーによって支えられた方たちの思いなどが紹介されていました。

メープルカイザーが活動を始めた理由には、子どものころのつらい経験があったことを知りました。

そのときの心の支えは、父が買ってくれたお菓子についていた仮面ライダー2号のフィギュアだったそうです。家族で見たヒーローショーで、客席からさらわれた自分を2号が助け出してくれ、「また必ず助けに来てくれる」と信じていたからだそうです。

社会人となり、広島県で過ごす間に、見聞きする児童虐待のニュースに自身の経験が頭をよぎり、子どもたちを「笑顔にしたい」という思いを強くしたとのことでした。

長い活動の中では、「偽善だ」などの中傷も寄せられ、さまざまな葛藤が続いたようです。

この記事の中で、わたしが特に熱くなったのは、メープルカイザーが自身の活動に対する自信が揺らいでいたときに、憧れの仮面ライダーを演じた俳優の佐々木剛さんと対面したところです。

2号のフィギュアを大切にしていたご当地ヒーローがいることを知った佐々木さんのスタッフが、そうした機会をつくってくれたようです。

「遅くなつて悪かつたな。助けに來たぞ」

2号に言われ、仮面の下で涙がこぼれた。

活動を続けるか迷っていることを伝えると、2号は答えた。
「君が始めたヒーローじゃないか。胸を張って歩きなさい」
迷いが晴れた瞬間だった。

※記事原文のまま

「心の支え」「熱い思い」はつながる
そういう思いを強くする記事でした。



People trust those who confront difficulties.
～ 人は、困難に立ち向かう姿を見て信頼を寄せる ～